台湾・中山大の楊学長が来校

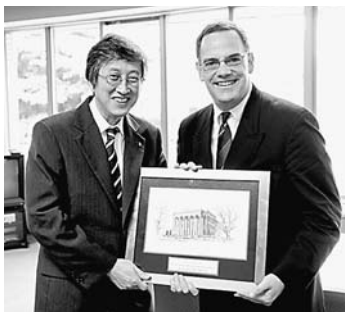
本学創立130年を祝い懇談

▲ 日高理事長・学長に記念の盾を渡す楊学長（左）

国際交流協定校である国立中山大学（台湾）の楊弘敦学長が9月9日、神田キャンパスを訪れ日高義博理事長・学長、大林守国際交流センター長らと懇談した。10月29日に行われる、アジア諸国の国際交流協定校による協定校学長会議及び翌日の創立130年記念式典に、楊学長が所用で出席できないため日高理事長・学長に直接、祝意を伝えたいと、この訪問が実現したもの。お祝いの言葉とともに創立130年を祝う盾をいただいた。

創立130年祝い絵画寄贈

米ネブラスカ大リンカーン校経営学部



▲ 日高理事長・学長に絵画を渡すS・フュース学科長（右）

専修大学創立130年を祝い、米ネブラスカ大から絵画が寄贈された。

学リンカーン校経営学部から絵画が寄贈された。BCLプログラム＝3面に記事＝受講生の引率で来日中の、同大学のスコット・フュース経営学部経済学科長が9月29日、生田キャンパスを訪れ、日高理事長・学長に手渡した。絵画は同大学リンカーン校経営学部の歴史ある建物を描いたもの。

本学とリンカーン校とは、1985年に国際交流協定を締結。本学が海外の大学と協定を結んだ初めての大学の一つ。以来二十数年間にわたり教員間・学生間の交流が続いており、特に経営学部間の交流は密接だ。

檀国大学編さんの世界最大規模漢字辞典

『漢韓大辞典』（全16巻）生田図書館に

国際交流協定校の韓国・檀国大学から『漢韓大辞典』（全16巻）が、専修大学に寄贈された。

『漢韓大辞典』は檀国大学の東洋学研究所が1977年から31年間にわたって編さん、昨年完成した韓国初の本格的漢字辞典。

私立大が独力で成し遂げた大事業に韓国内で驚きの声が上がっている。

「檀国大学の〝古き良き友人〟専修大学に最初に寄贈することになりました」と、同大学日語日文学科教授で専修大学外国人客員研究員・ネットワーク情報学部非常勤講師の宋貴英（ソンキヨン）さんは語る。

同辞典に収録された文字は5万5000、語彙は45万語にのぼる。日本の諸橋轍次編『大漢和辞典』（4万9000余字・39万語）や中国の『漢語大辞典』（2万3000余字・38万語）、台湾の『中文大辞典』（5万余字・40万語）の、いずれをも超える世界最大規模の漢字辞典となった。

古典の解読や研究に必要な韓国固有語を含む一般語彙をはじめ、人名・地名・制度名・書名などすべての分野の語彙を網羅。さまざまな原典から精選され、豊富な例文で解説されている。

この大事業を導いたのは、現在、専修大学外国人客員研究員として来日中の張忠植（チャンチュンシク）檀国大学名誉総長。専門は東洋史で、檀国大総長時代に韓国内に専門の漢字辞典がなかったことから刊行に乗り出し、研究者をはじめ延べ20万人が編さんにかかわった。昨年、ソウルでの出版記念式典には本学から小山利彦文学部教授が出席、刊行の意義と喜びを表明した。

全16巻は生田キャンパスの図書館に収蔵される。「漢字は私たち共通の文化の原点。中国大陸、朝鮮半島と日本との古代の交流史を見れば、私たちが深い関係にあったことが分かります。そんな思いを込め、一緒に辞典をひもとき、勉強してみませんか」と宋教授は呼びかけている。

▲ 『漢韓大辞典』

新司法試験最終合格者発表

法科大学院から17人

私立大学全体で14位に

4年目を迎えた平成21年新司法試験の結果が、9月10日、法務省司法試験委員会から発表された。本学法科大学院からの合格者は17人（既修者15人・未修者2人）。

合格者は下の通り。なお、和合佐登恵さんも合格している（写真未掲載）。

受験者数に対する合格率の大学別順位では全国で29位、私立大学では14位。

星野　公洋さん　柏木　美香さん　菅井　裕介さん　大類　街子さん

植田　高史さん　田仲　敏征さん　諏訪　卓也さん　佐藤　睦巳さん

染谷　隆明さん　湯原和比古さん　小林　光明さん　市川　奨さん

藤森　誠二さん　永濱　迅人さん　宇野真由美さん　新井　陽平さん

4学部で学期末卒業

学位取得

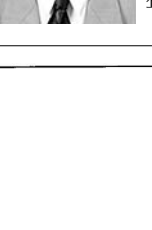
平成21年度学期末卒業の学位記授与式が、9月29日、生田・神田キャンパスで行われた。対象者は二部経済学部6人、二部法学部4人、経営学部5人（今年度から）、一部商学部4人、二部商学部5人で、出席者には各学部長（二部は二部学生部長）から学位記が手渡された。ネットワーク情報学部は該当者なし。

▲ 法学部＝小林弘和二部学生部長から

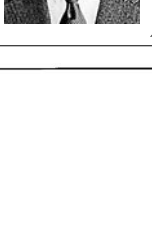
▲ 商学部＝内野明学部長から

▲ 経営学部＝瓶子長幸学部長から

永江雅和経済学部教授＝写真＝が、2009年3月11日付で一橋大学から博士（経済学）の学位を授与された。学位論文名は「戦時・戦後の食糧供出制度と農地改革―埼玉県南埼玉郡潮止村・八條村を事例として―」



西坂靖文学部教授＝写真＝が、2008年1月16日付で東京大学から博士（文学）の学位を授与された。学位論文名は「三井越後屋奉公人の研究」



公開講座情報

※詳細はホームページをご覧ください

【言語・文化研究センター主催】
【第５回国際公開講座】

▶日時＝10／31、11／1　10時30分～17時
▶内容＝「チョーサーとラングランド」をテーマに講演　▶場所＝神田キャンパス

【東アジア世界史研究センター主催】
【国際シンポジウム】

▶日時＝11／21、22　10時～　▶内容＝「古代東アジアの交流と留学生」をテーマに講演
▶場所＝神田キャンパス

圖ともに社会知性開発研究センター事務課　☎044(911)1347

【教育学会第57回大会】

「連携・交流」をメーンテーマに、専修大学教育学会第57回大会が11月22日、神田キャンパスで開かれる。教育の場で活躍する卒業生４人の研究発表のほか、宮岡孝之法科大学院教授（弁護士）が、「教育現場での訴訟問題」を講演する。会員以外の方も参加可能。

圖　学務課　☎044(911)1253

●大学院公開講座ＰＡＲＴ１

「現代日本政治の『光』と『影』」始まる

大学院では、日本の政治状況を検討する政治の「光」と「影」の部分に焦点を合わせた全４回の公開講座が開講中。

10月2日は、藤本一美法学研究科教授が、「麻生内閣と『解散・総選挙』」を講演した＝写真。

ＰＡＲＴ２は、11月13日から「変貌する日本経済とその展望：危機を超えて」が全４回行われる。日程、問い合わせは、大学院公開講座のページで。

健康フラッシュ

インフルエンザ感染予防の徹底のために

現在、新型インフルエンザ（H1N1）が、大流行しています。では、インフルエンザは、どのように感染するのでしょうか。専門用語では、飛まつ感染にて感染するといわれています。飛まつ感染とは、患者さんのせきやくしゃみ、あるいは気道の吸引などによって飛散する体液の粒子（飛まつ）が、他人の粘膜に付着することで感染することをいいます。日本でも新型インフルエンザの水際作戦の際、検疫にて、患者さんの座席周囲2㍍の人を隔離したことが報道されたことが記憶があると思います。ただ、飛まつ感染だけでなく、くしゃみなどで拡散した粒子に手が触れ、その手で目をこすったりして粘膜から感染する接触からも感染します。これを接触感染といいます。よって、インフルエンザは、接触感染からも感染します。類似した言葉として、飛まつ核感染という言葉がありますが、飛まつとして空気中に飛散した病原体が、空気中で水分が蒸発して5μg以下の軽い微粒子（飛まつ核）となって、呼吸により粒子を吸い込むことにより感染を生じます。いわゆる、空気感染です。麻疹（水ぼうそう）、結核が代表的な疾患としてあげられます。

今回は、インフルエンザの感染経路についてお話ししました。これから、冬に向け、さらなる流行が懸念されています。感染経路を理解したうえで、外出後は、手洗い、うがいを徹底し、せきなどの症状があるときは、せきエチケットとしてマスクを着用し、自ら感染予防の徹底をお願いします。（保健室）

Quality for You
MUFG
三菱東京UFJ銀行